

高齢者の安全対策委員会

発表日 平成29年11月29日

発表者 高齢者の安全対策委員会

委員長 木村 みさか

1

高齢者の安全対策の必要性

- ①2010年には高齢化率が20%を超え
高齢化が進んでいる。
- ②高齢者10万人あたりの外傷受傷率は
年々増加している。
- ③高齢者は、本人の命を守るための不安
を感じている。



2011年

高齢者の安全対策委員会の設置

2

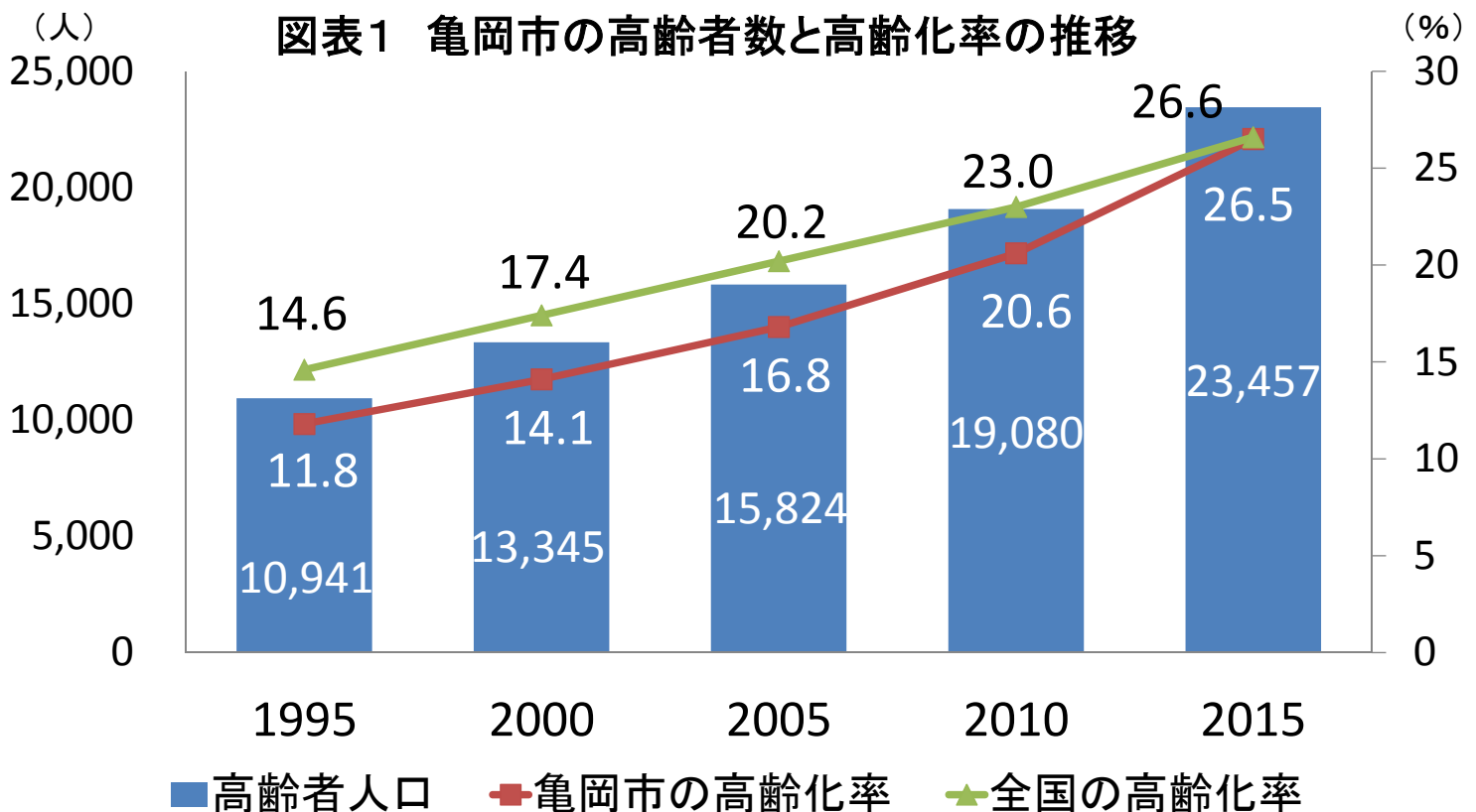
高齢者の安全対策委員会構成

区分		所属団体	役職
市民団体等	1	千歳町自治会 会長	副委員長
	2	宮前町地区社会福祉協議会 会長	
	3	亀岡市民生委員児童委員協議会 会長	
	4	篠町自治会 会長	
	5	亀岡市老人クラブ連合会 副会長	
関係機関等	6	京都学園大学 健康医療学部 教授	委員長
	7	京都学園大学 経済経営学部 教授	
	8	亀岡市地域包括支援センター あゆみ センター長	
行政関係	9	京都府南丹保健所 企画調整室長	
	10	亀岡市高齢福祉課 課長	
	11	亀岡市健康増進課 課長	
	12	亀岡市保険医療課 課長	
	13	亀岡市自治防災課 課長	

3

高齢者人口・高齢化率（65歳以上） 「高齢化率は年々増加している」

図表1 亀岡市の高齢者数と高齢化率の推移



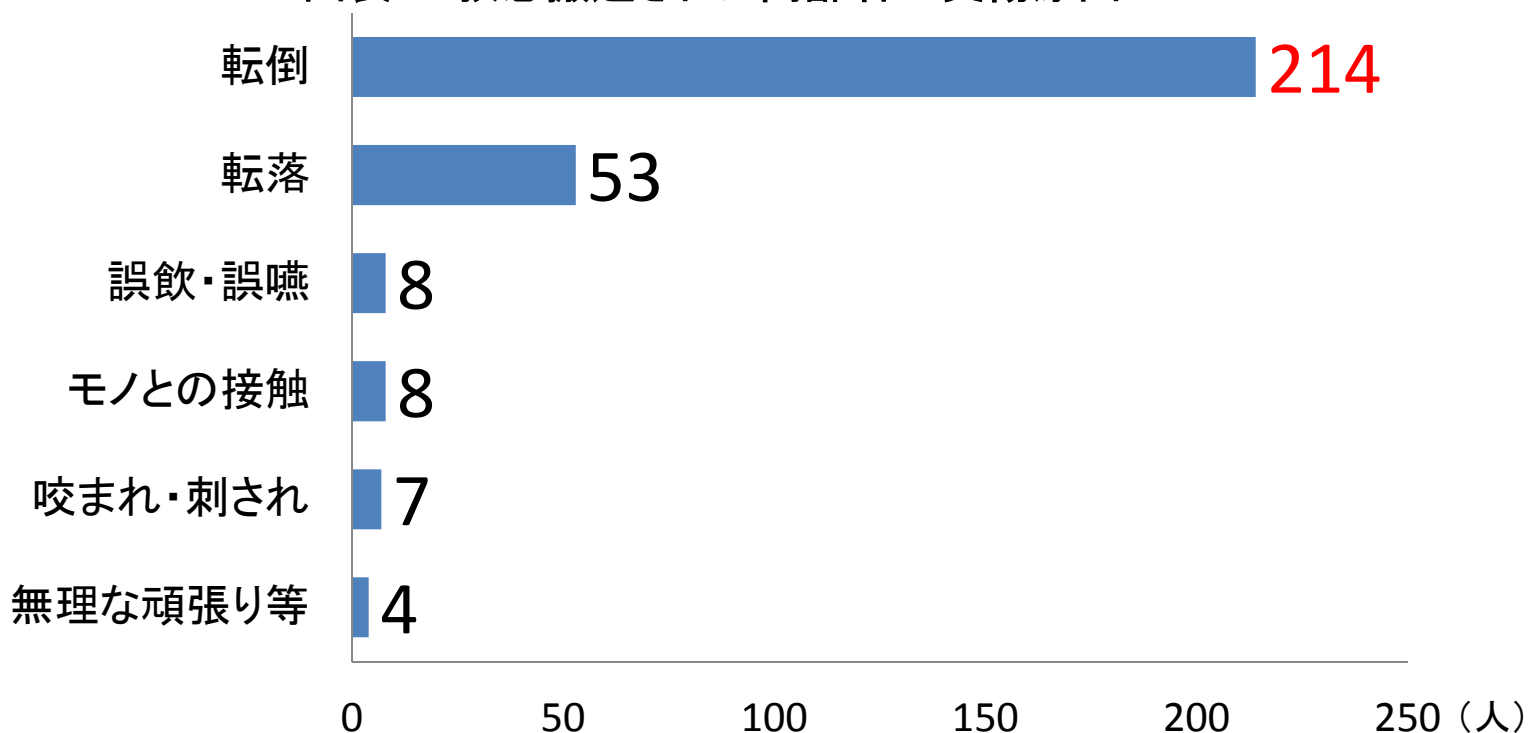
出典：国勢調査

4

データから見る亀岡市の実態（継続課題）

「高齢者の受傷原因は転倒が最も多い」

図表2 救急搬送された高齢者の受傷原因



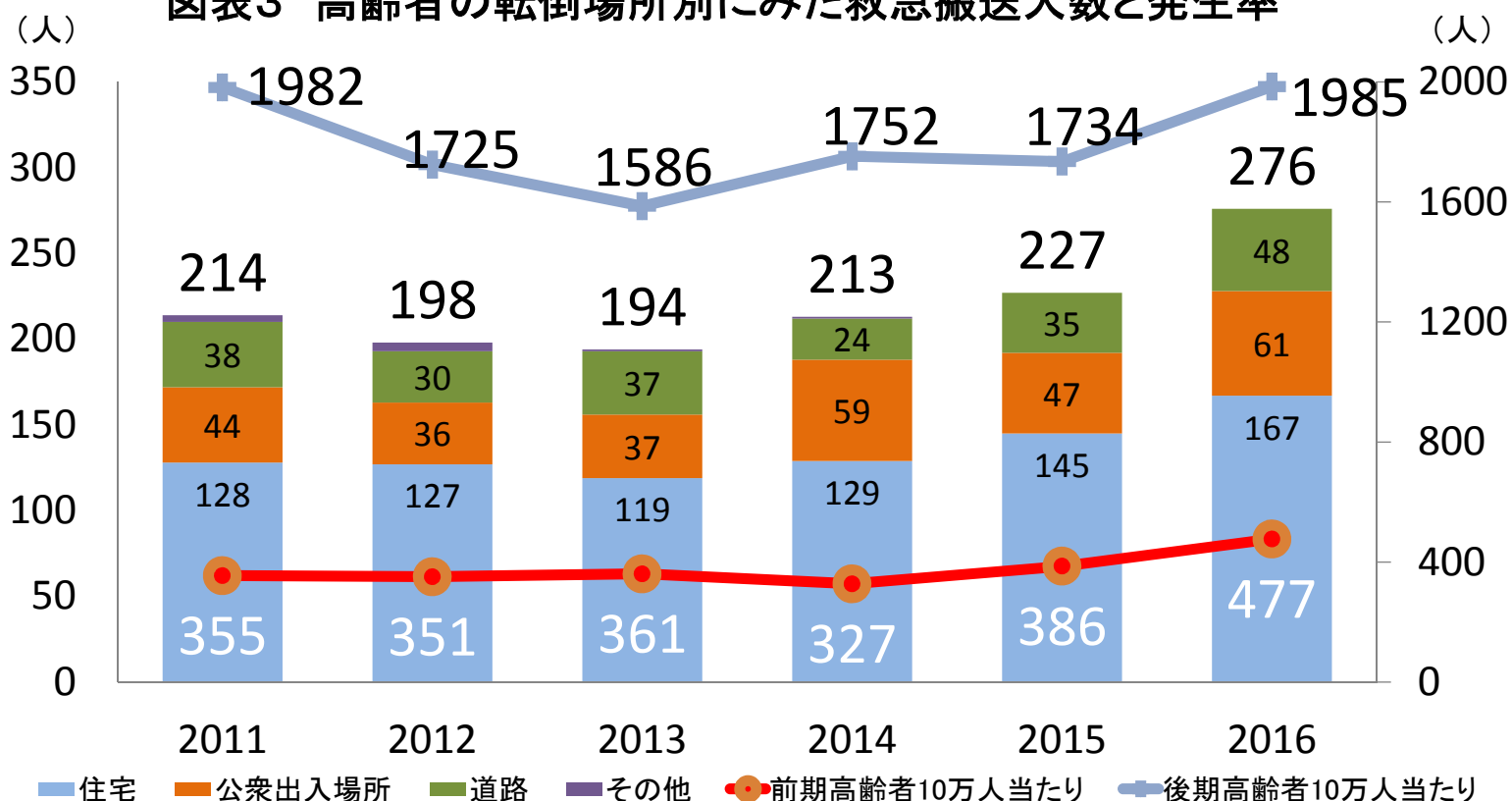
出典：救急搬送データ(2011年)

5

データから見る亀岡市の実態（継続課題）

「高齢者の転倒発生率は増加傾向にある」

図表3 高齢者の転倒場所別にみた救急搬送人数と発生率

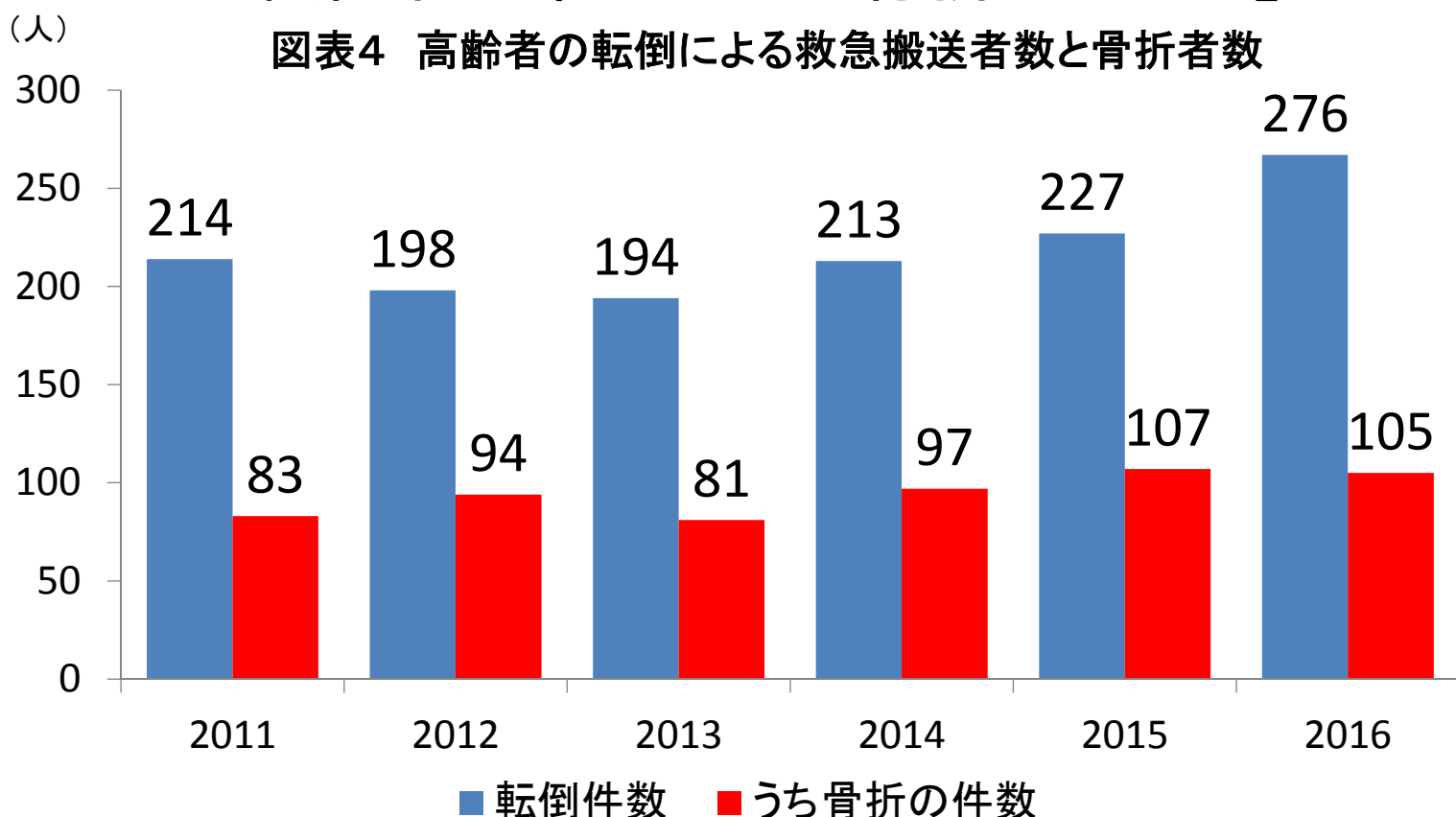


出典：救急搬送データ

6

データから見る亀岡市の実態（継続課題） 「転倒者の約40%が骨折している」

図表4 高齢者の転倒による救急搬送者数と骨折者数

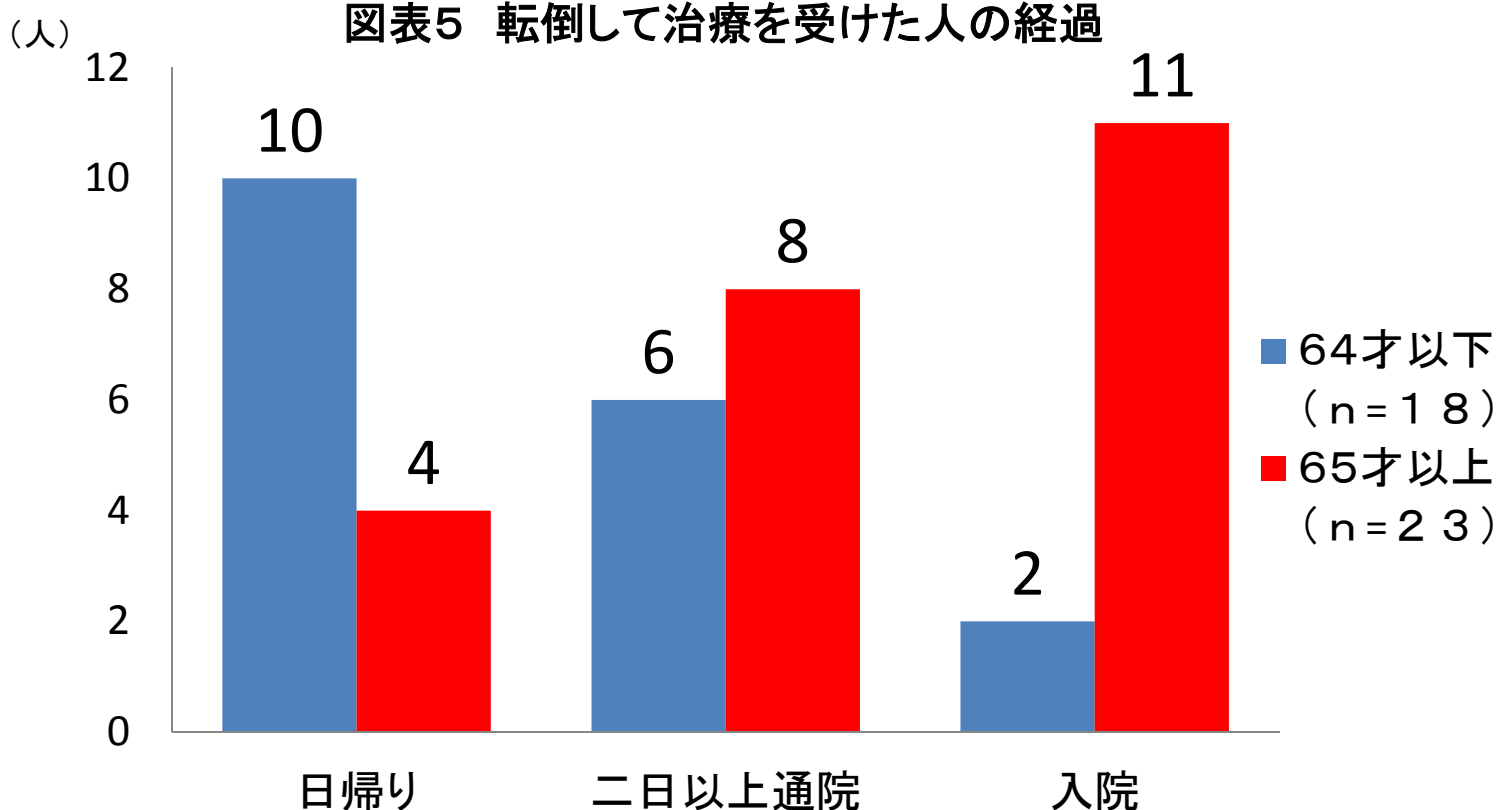


出典：救急搬送データ

7

データから見る亀岡市の実態（継続課題） 「高齢者は転倒すると入院することが多い」

図表5 転倒して治療を受けた人の経過

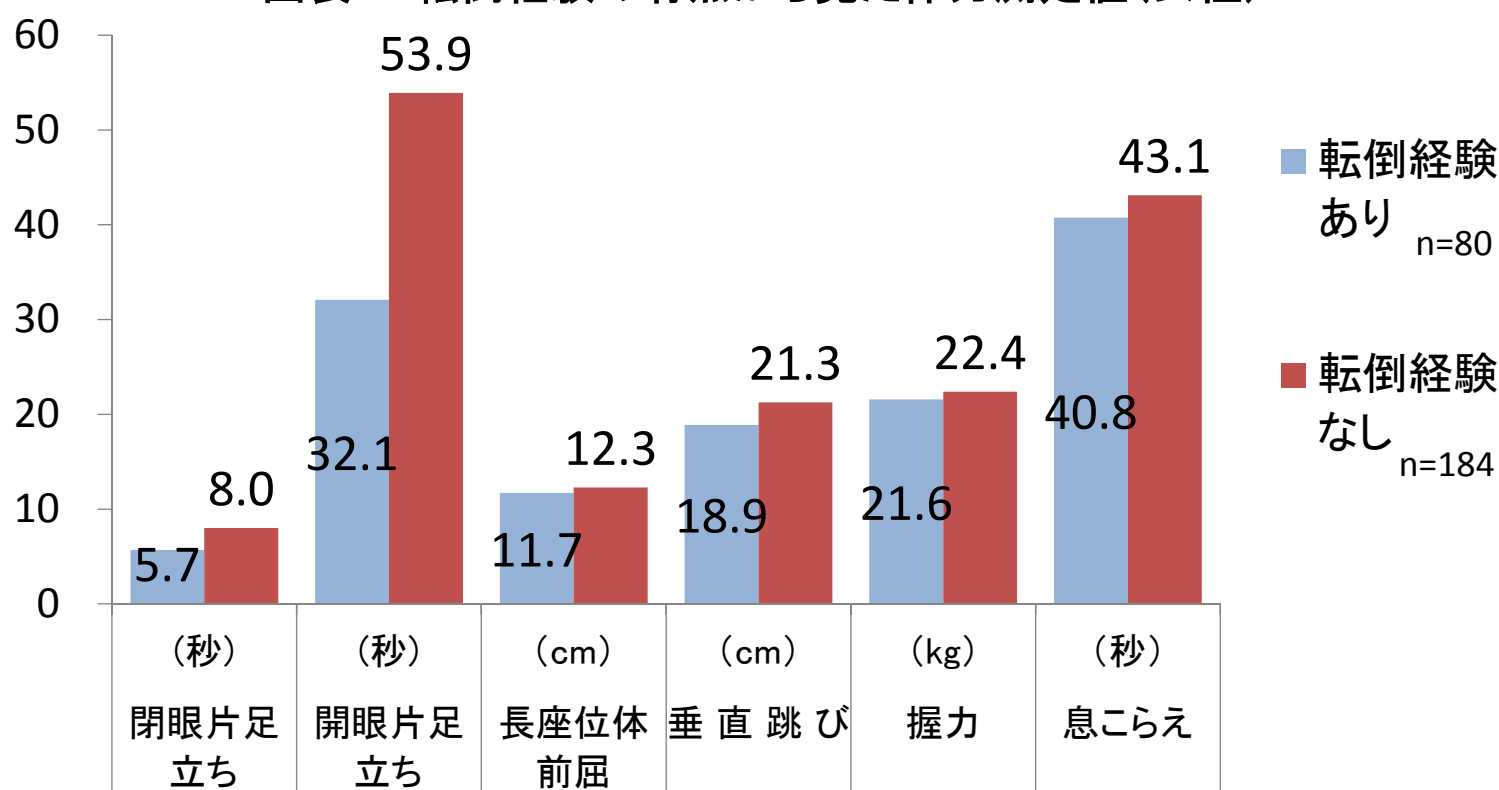


出典：亀岡市SCアンケート調査（2016）

8

データから見る亀岡市の実態（継続課題） 「高齢者の転倒は運動機能の低下が主たる要因」

図表6 転倒経験の有無から見た体力測定値（女性）

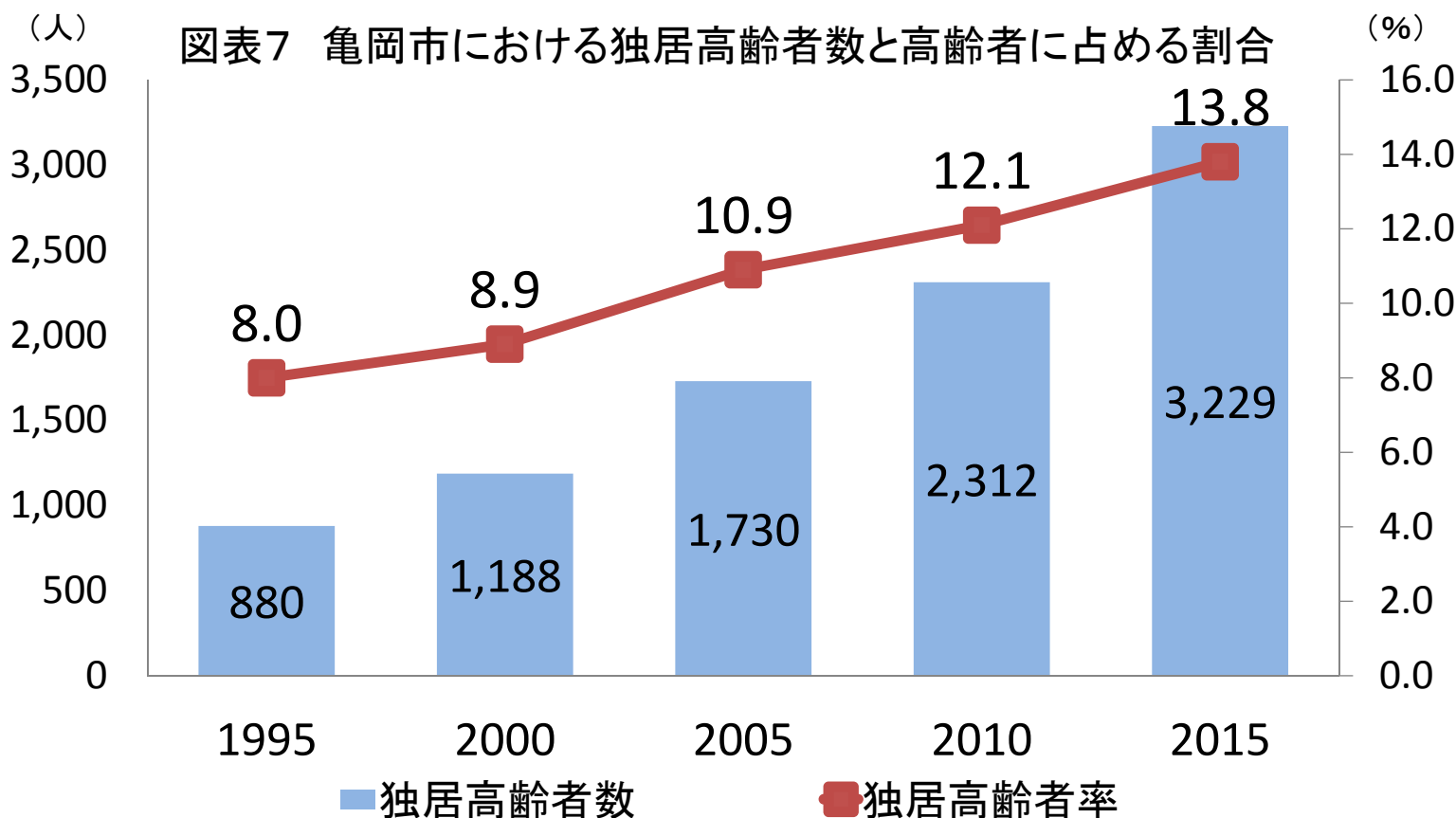


出典：木村ら（2000）

9

データから見る亀岡市の実態（継続課題） 「独居高齢者が増加している」

図表7 亀岡市における独居高齢者数と高齢者に占める割合



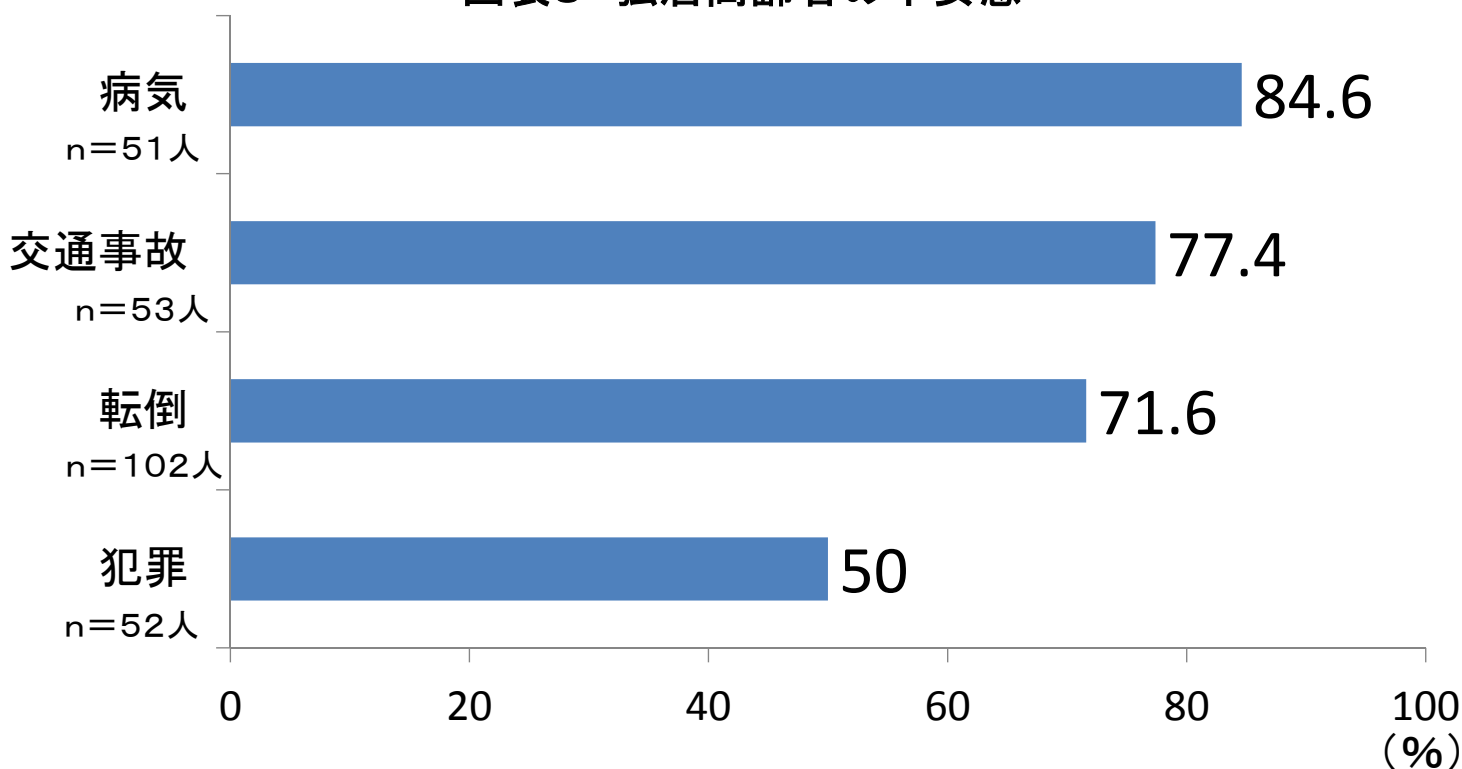
出典：国勢調査

10

データから見る亀岡市の実態（継続課題）

「独居高齢者は病気、交通事故、転倒の順に不安を感じている」

図表8 独居高齢者の不安感



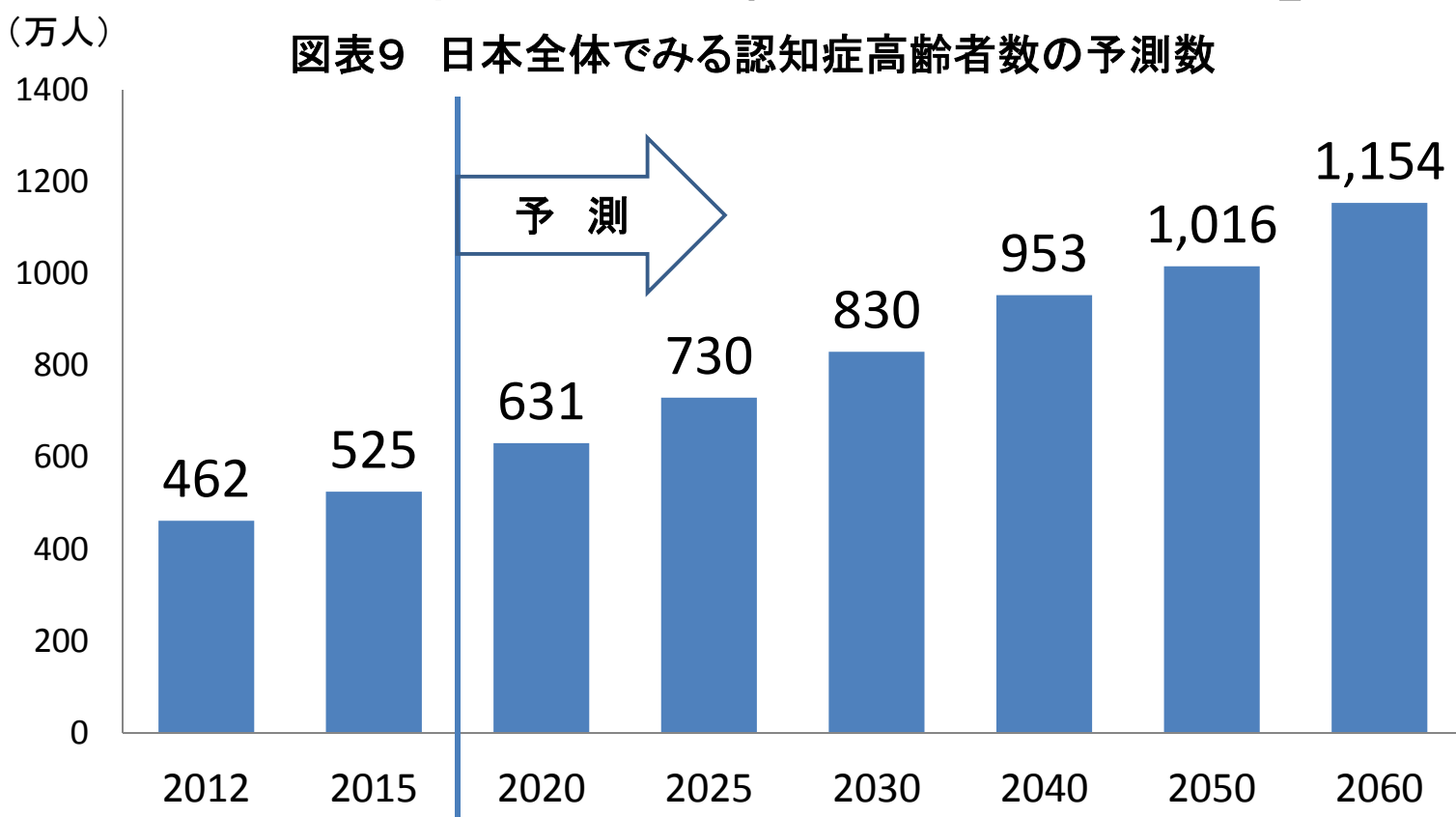
出典：亀岡市SCアンケート調査（2016）

11

データから見る日本の実態（継続課題）

「認知症高齢者の増加が予測される」

図表9 日本全体でみる認知症高齢者数の予測数

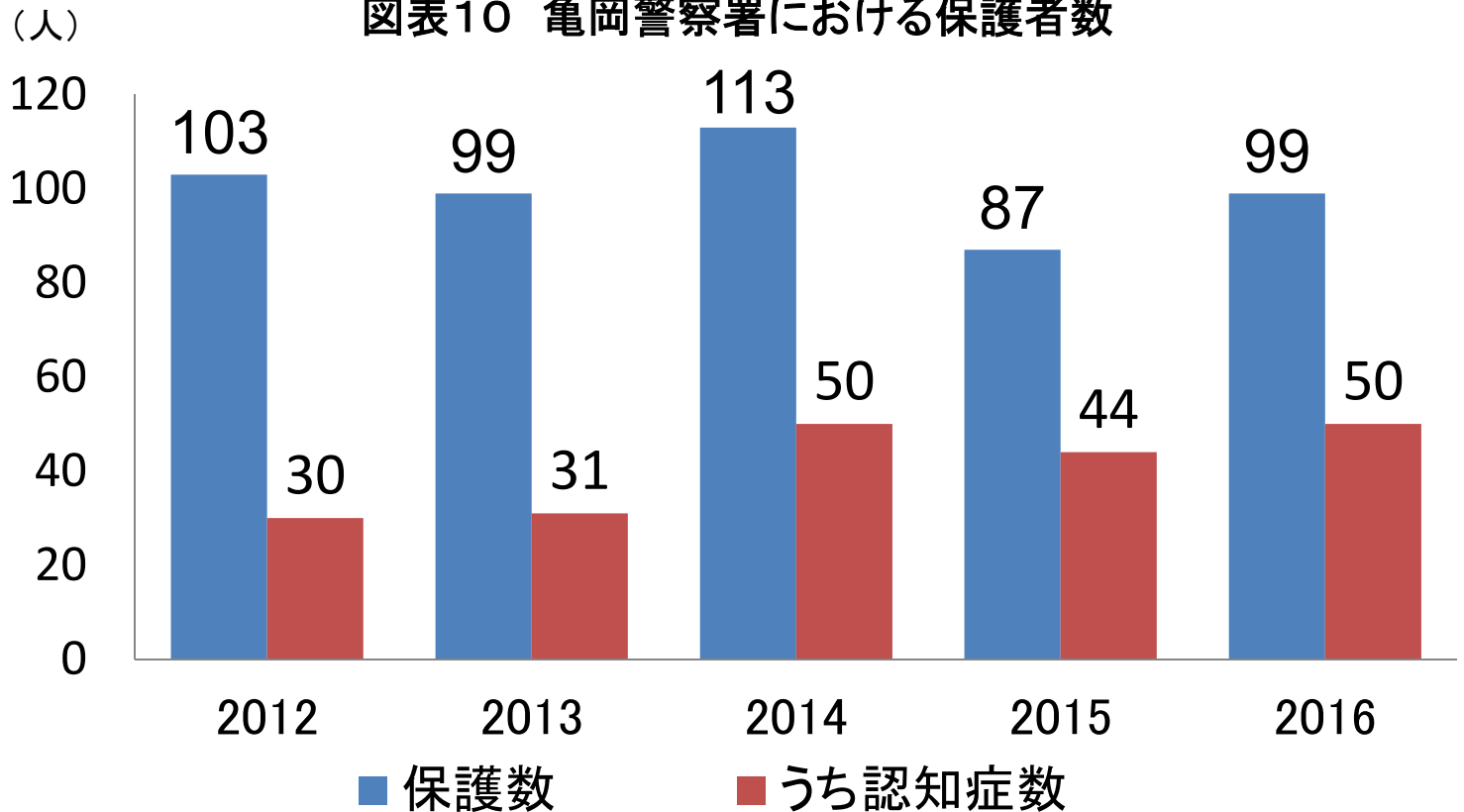


出典：内閣府高齢社会白書（2016）

12

データから見る亀岡市の実態（新規課題） 「認知症等高齢者の徘徊が増えている」

図表10 亀岡警察署における保護者数



出典: 亀岡警察署

13

課題の整理

データに基づくもの

- ・(継) 高齢者の受傷原因は転倒が最も多い(図表2)
- ・(継) 高齢者の転倒件数は増加傾向にある(図表3)
- ・(継) 高齢者は転倒すると骨折・入院することが多い(図表4、5)
- ・(継) 高齢者の転倒は運動機能の低下が主たる要因である(図表6)
- ・(継) 独居高齢者が増加している(図表7)
- ・(継) 高齢者の病気や転倒への不安感が強い(図表8)
- ・(継) 認知症高齢者の増加が予測される(図表9)
- ・(新) 認知症等高齢者の徘徊が増えている(図表10)

重点課題の設定

14

課題解決のための方向性と対策

実 態		課 題		方向性(対策)
・(継)高齢者の受傷原因は転倒が最も多い ・(継)高齢者の転倒件数は増加傾向にある ・(継)高齢者は転倒すると骨折や入院することが多い ・(継)高齢者の転倒は運動機能の低下が主たる要因	→	高齢者の転倒による外傷の減少	→	①高齢者に対する運動プログラム
・(継)独居高齢者が増加している ・(継)高齢者の病気や転倒への不安感が強い	→	独居高齢者が安心して暮らす	→	②命のカプセルを配布
・(継)認知症高齢者の増加が予測される ・(新)認知症等高齢者の徘徊が増えている	→	認知症等高齢者の安全の確保	→	③認知症等高齢者徘徊早期発見プログラム

15

レベル別の対策

別添資料を
御覧ください

16

プログラムの運営状況

	進行状況				計画(予定)	
	2013	2014	2015	2016	2017	2018
高齢者の見守り事業				全市展開		
なんたん元気づくり体操				組み入れ		
高齢者に対する運動プログラム				継続		
命のカプセル				継続		
認知症等高齢者徘徊早期発見プログラム				新規		

17

①高齢者に対する運動プログラム(継続)

実 態	高齢者の外傷は、転倒が最も多い	
課 題	高齢者の転倒による外傷を減らす	
内容等	【内容】	健康に関心の薄い高齢者に対し、地域に出向き転倒予防体操を実施
	【対象】	高齢者
(短・中期) 態度や行動の 変化	【指標】 参加者の意識、活動量・体力値	【測定】 参加者のアンケート調査、日常生活の運動時間や運動能力を測定
(長期) 状態や状況の 変化	【指標】 高齢者の転倒経験、医療費及び介護給付費	【測定】 参加者のアンケート調査、国民健康保険・後期高齢者医療保険における医療費及び介護保険給付費

18

高齢者に対する運動プログラムの介入状況

プログラム内容を研究グループと協働開発

運 動

口腔ケア

栄 養

～研究グループ～

京都学園大学・京都府立医科大学・京都大学・立命館大学・国立健康栄養研究所・東京都健康長寿医療センターなど

19

高齢者に対する運動プログラムの介入状況

高齢者が参加しやすいように運動教室を各地で開催



20

高齢者に対する運動プログラムの介入状況 市民サポーターを養成



21

高齢者に対する運動プログラムの介入状況 体力測定会



22

プログラムの活動実績(1)

	実績と今後の予定	実 績			
		2013	2014	2015	2016
運動教室	運動介入プログラム参加者	10町 510人	継続 		250人
	運動量・体力測定		継続 	700人	700人
介護予防 サポーター 養成講座	介護予防サポーター累計数	98人	157人	230人	302人
	サポータースキルアップ 講座参加者数	40人	50人	60人	72人

23

プログラムの活動実績(2)

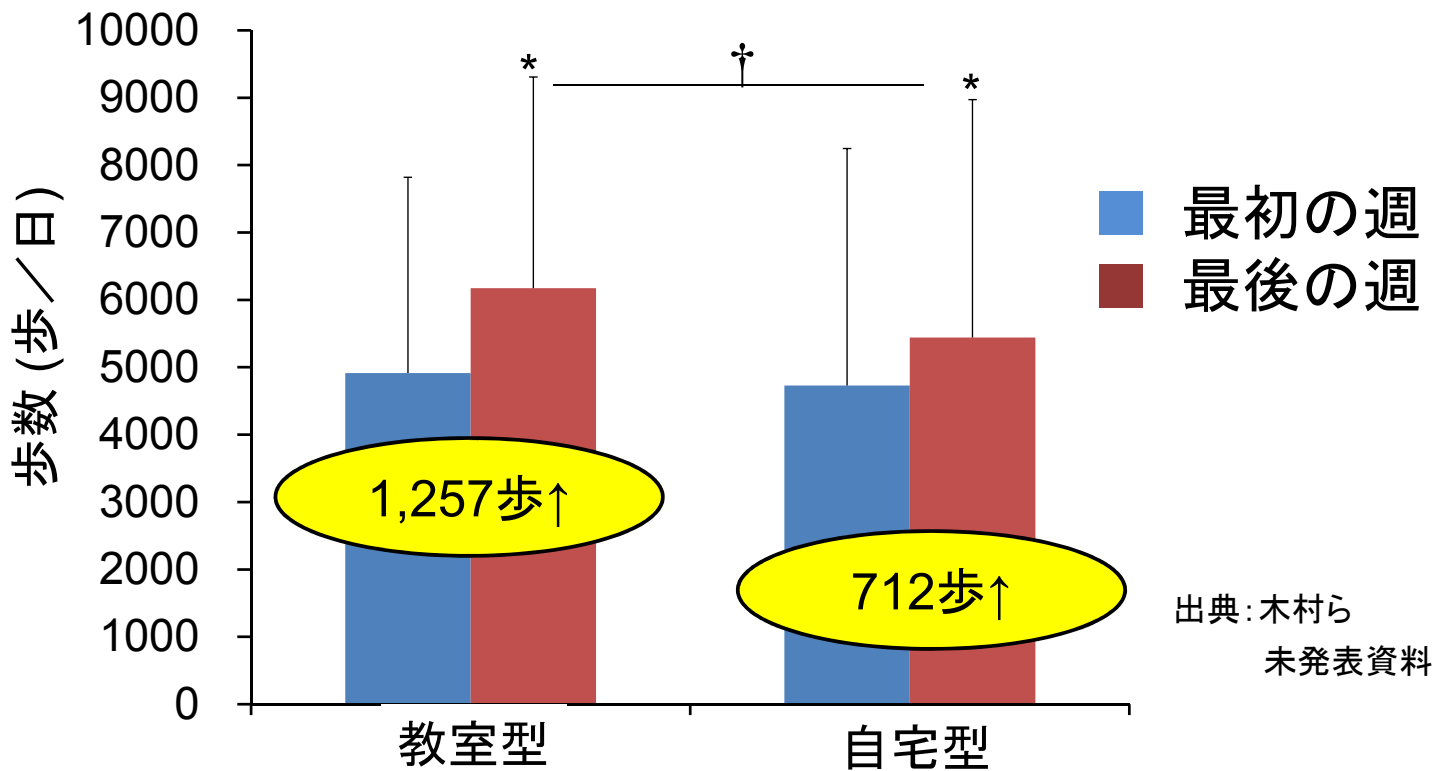
対策委員会の関わり	工夫点
委員がそれぞれの役割を果たしている ・京都学園大学 →運動プログラムの実施 ・自治会関係 →地域での活動場所の調整と提供 ・民生委員、包括支援センター →制度の周知活動	高齢者が参加しやすいように地域へ出向き転倒予防体操を実施している

24

プログラム評価(短期・中期)

「運動介入プログラム実施後は平均歩数が増加している」

図表11 運動介入プログラム実施前後の参加者の平均歩数



(調査対象: 約500名) * : 介入前との差($p < 0.01$) ; † : 群間の差($p < 0.01$)

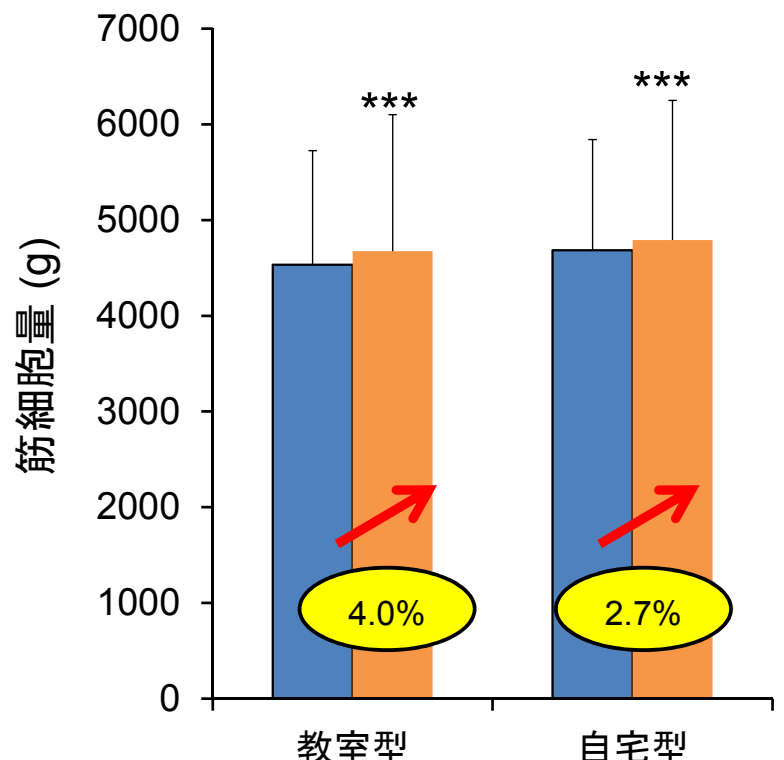
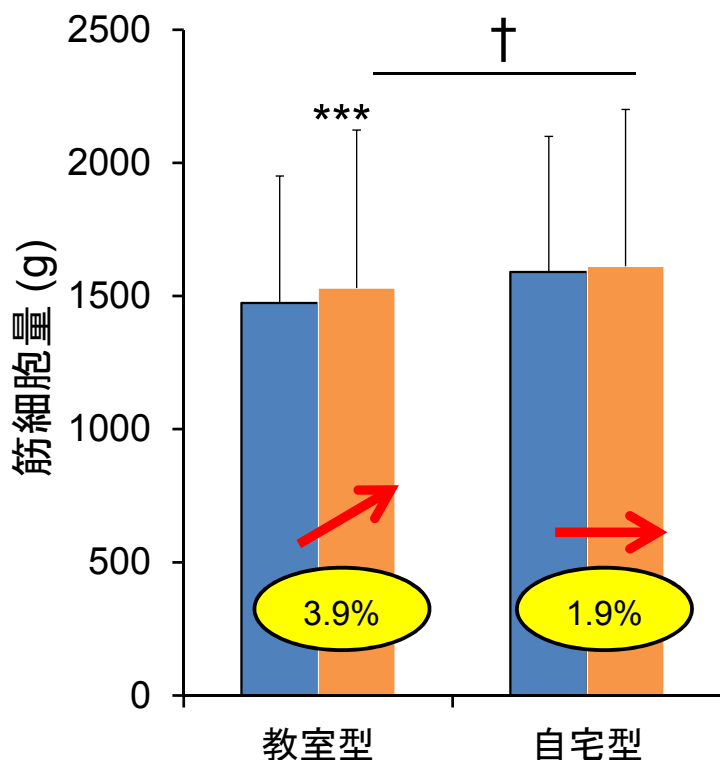
25

プログラム評価(短期・中期)

「運動介入プログラム実施後は筋細胞量が増加している」

図表12 プログラム介入前後の上肢筋細胞量

図表13 プログラム介入前後の下肢筋細胞量



(調査対象: 約500名)

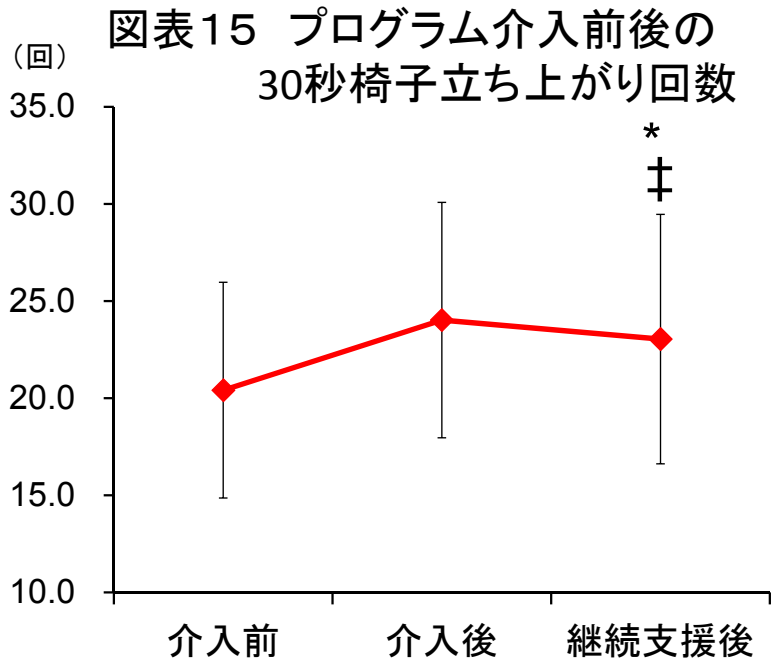
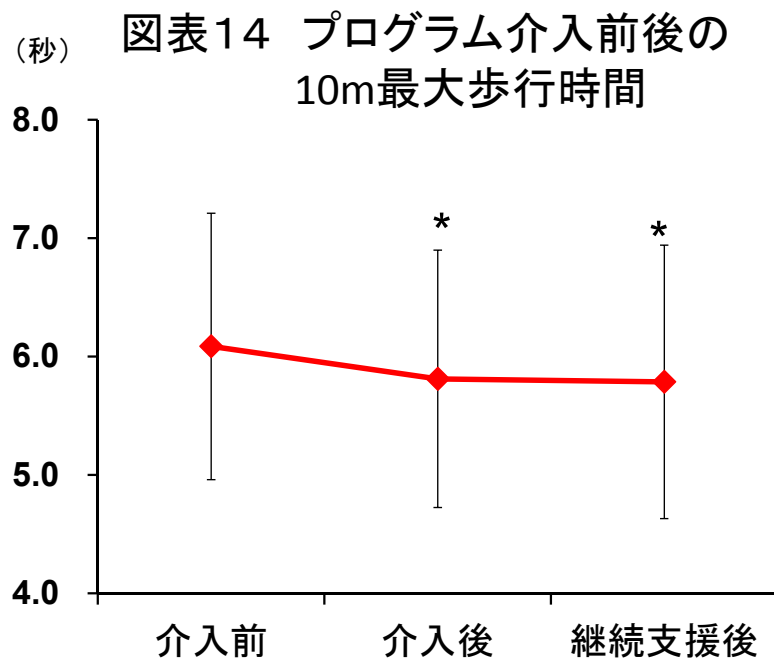
■ 介入前 ■ 介入後

出典: 木村ら未発表資料

26

プログラム評価(短期・中期)

「プログラム対象者はプログラム実施1年半後も体力を維持」

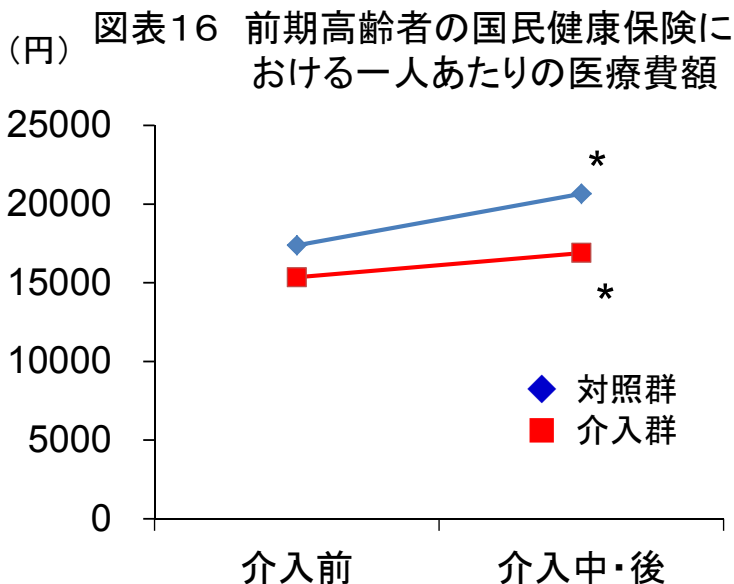
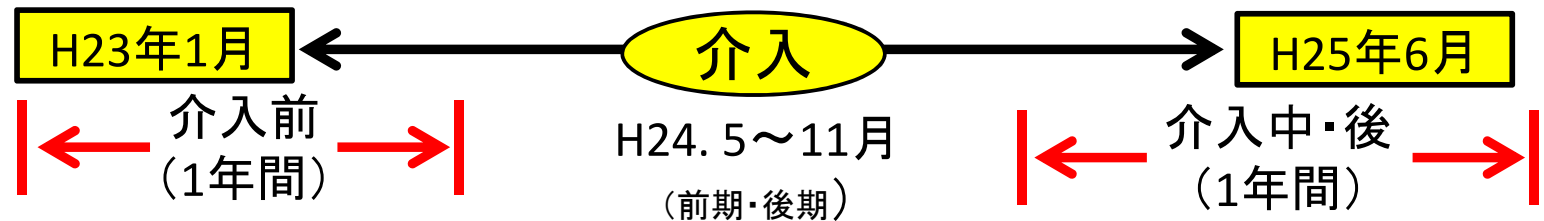


※初回の体力測定参加1,457名のうち、
運動教室参加 約500名⇒304名が継続支援後1年半後の測定会参加
非参加者のうち、237名が1年半後の測定会参加 出典: 木村ら未発表資料

27

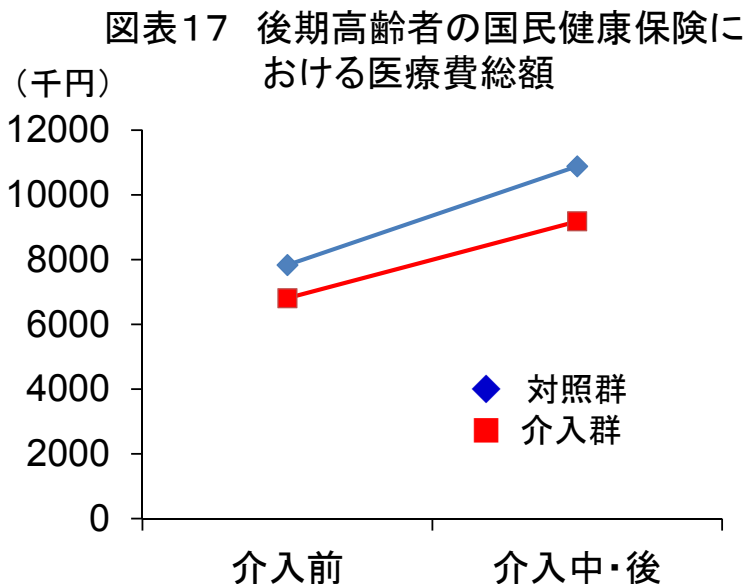
プログラム評価(長期)

「プログラム参加者の医療費は少ない傾向」



(調査対象: 約500名)

*($p < 0.05$)



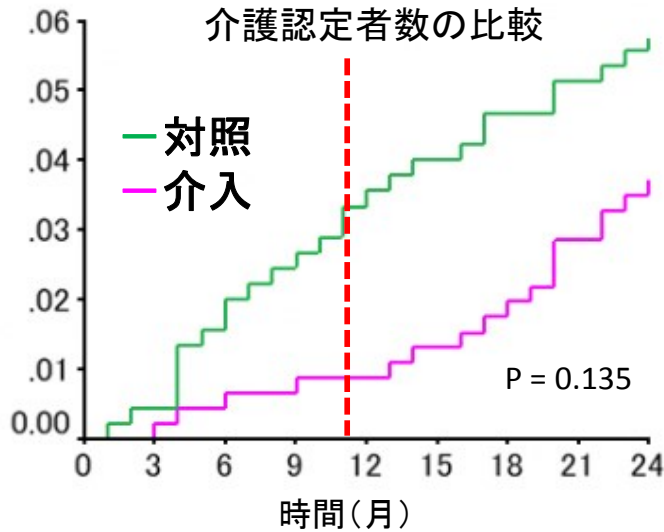
出典: 木村ら未発表資料

28

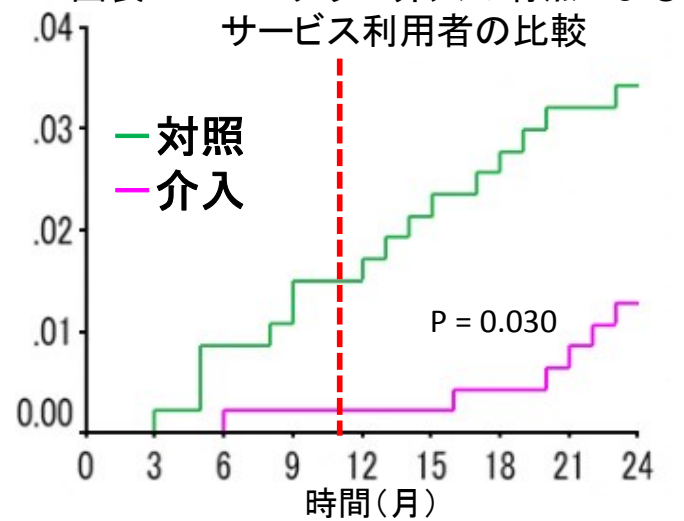
プログラム評価(長期)

「プログラム実施対象群は、介護認定者数、
介護サービス利用者数、介護給付額が少ない」

図表18 プログラム介入の有無による
介護認定者数の比較



図表19 プログラム介入の有無による
サービス利用者の比較



	介護認定者数	サービス利用者	介護給付総額(2年間)
介入群	27人	6人	2,452,780円
対照群	46人	16人	11,158,538円

(調査対象: 約500名)

(期間: H23年7月～H25年6月)

出典: 木村ら未発表資料

29

②命のカプセルプログラム(継続)

実 態	独居高齢者は、病気や転倒などに不安を感じている	
課 題	独居高齢者が安心して暮らす	
内容等	【内容】	救急時に必要な情報(かかりつけ医療機関、服薬内容、病歴等)が入ったカプセルを高齢者宅の冷蔵庫に配備する
	【対象】	独居高齢者、高齢者のみ世帯(基本70歳以上)
(短・中期) 配布数と使用数	【指標】 命のカプセル配布数	【測定】 救急搬送時のカプセル活用件数
(長期) 状態や状況の変化	【指標】 高齢者の不安感の割合	【測定】 セーフコミュニティアンケート調査

30

命のカプセルプログラムの活動状況



31

プログラムの活動実績

対策委員会の関わり	工夫点
民生委員児童委員がカプセルの配布を行っている	対策委員会が情報の更新を提案し、包括支援センターの職員が随時カプセル内の情報更新を呼びかけている。

32

プログラム評価(短期・中期)

命のカプセルの配布数と使用数

「配布数は増加しているが、活用件数は減少している」

	実 績			
	2013	2014	2015	2016
配布数			継続	
	314人	458人	1,150人	979人

	2013	2014	2015	2016
使用件数	40件 n=314	38件 n=772	7件 n=1,922	16件 n=2,901

出典: 亀岡消防署

33

プログラム評価(予定)

高齢者の病気等に対する不安感				
	まったく不安でない	あまり不安でない	不安である	非常に不安である
独居高齢者 (n=51)	0%	15.4%	73.1%	11.5%
高齢者 (n=375)	5.6%	27.8%	52.5%	14.1%

出典: セーフコミュニティアンケート(2016)

34

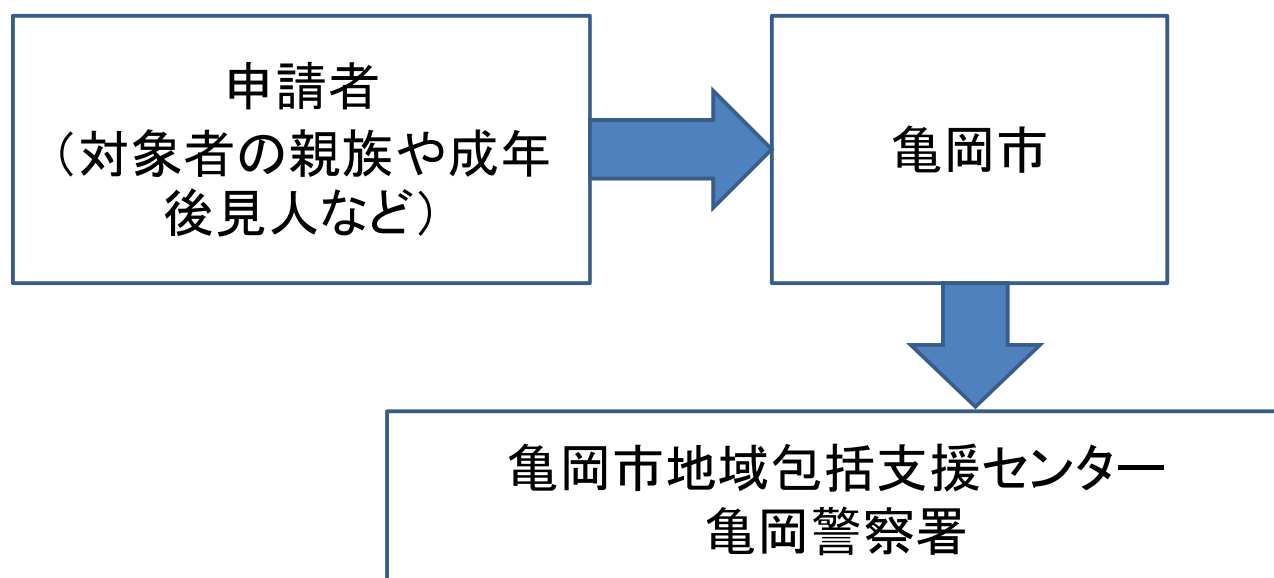
③認知症等高齢者徘徊早期発見プログラム(新規)

実 態	認知症等高齢者の徘徊が増加している	
課 題	認知症等高齢者の安全を確保する	
内容等	【内容】	認知症等高齢者が行方不明時に早期発見できるシステムを構築する
	【対象】	認知症等高齢者
(短・中期) 態度や行動の 変化	【指標】 制度の認知度、活用件数	【測定】 事業の実施状況報告、 セーフコミュニティアンケート調査
(長期) 状態や状況の 変化	【指標】 認知症等高齢者の行方不明件数	【測定】 亀岡警察署等からの報告

35

認知症等高齢者徘徊早期発見プログラムの活動状況

事前登録制度の概要



36

認知症等高齢者徘徊早期発見プログラムの活動状況

行方不明高齢者発見 事前登録書		登録No.
------------------------	--	-------

事前登録書の内容

○登録者の情報

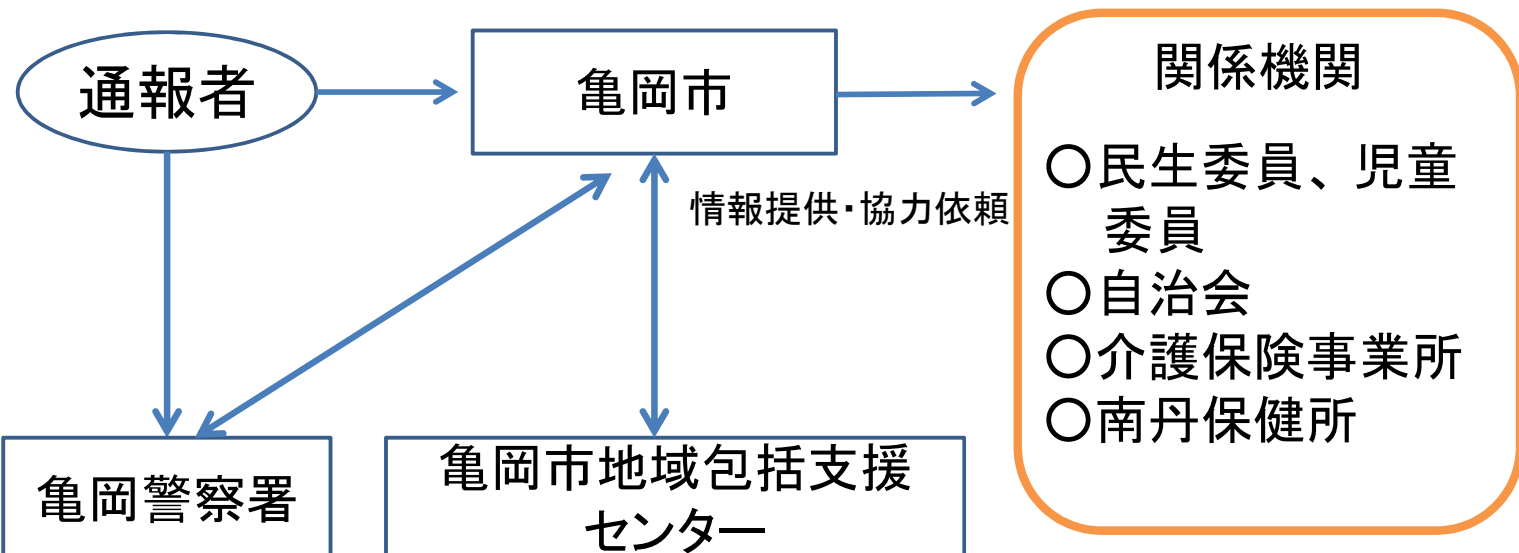
フリガナ氏名	フリガナ (旧姓)	性別	男・女	写 真
生年月日	明治・大正・昭和 年 月 日			
住 所				
電話番号				
身長	cm くらい	体重	kg くらい	
体 型	肥 ・ 小肥 ・ 中肉 ・ やせ		(※3カ月以内、全身、撮影日がわかれば記入)	
めがね	有 ・ 無 (レンズ: 緑:)			
頭 髪	長髪・短髪・その他 () (色:)			
よく行く場所				
かかりつけ医	(通称・主診医名)	電話番号		
担当ケアマネ	(通称・ケアマネ名)	電話番号		

- ・氏名など基本情報
- ・身長、体重
- ・体型
- ・めがねの有無
- ・頭髪
- ・写真

37

認知症等高齢者徘徊早期発見プログラムの活動状況

行方不明になったとき



38

認知症等高齢者徘徊早期発見プログラムの活動状況

QRコード付の名札を服に貼る

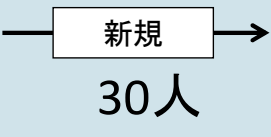


認知症等高齢者徘徊早期発見プログラムの活動状況

靴用反射材シール



プログラムの活動実績

実績と今後の予定	実 績	対策委員会の 関わり	工夫点
	2016		
認知症等高齢者事前登録制度		制度運営に係るアドバイス	・交通安全との両立 ・個人情報保護との両立
QRコード付名札の配布			
認知症等高齢者靴用反射材シールの配布	2017年から開始	靴用反射材シールのデザイン・配布方法の検討	

41

気付きや変化

●様々な関係機関と連携することで、根拠に基づいた取り組みができ、経済効果の分析にもつながった。

●他のSC自治体の取組事例を検討し、高齢者の安全対策委員会において詳細に検討したことで、新たな取り組み（靴用反射シール）につながった。

42

現在の課題

●運動介入プログラムの市内全域への展開が十分に出来ていない。

●命のカプセルの活用・周知が十分ではない。

43

今後の計画

SC再々認証

2018

2019

2020

2021

2022

SC再々認証

2023

プログラム① 拡大 介護予防サポーターを核に拡大

プログラム② 継続 命のカプセルの活用推進

プログラム③ 継続 ・事前登録制度の市民への周知と広報
・靴用反射材シールを着用してもらう
工夫を検討する

44

虐待に対する取り組み

- ・亀岡市高齢者虐待対応マニュアルを作成
- ・相談・通報・届出窓口は、高齢福祉課又は地域包括支援センター
- ・包括支援センターは市内5箇所に設置し、行政や各関係機関と連携している。